

SUPPLEMENT TO GENES GENET. SYST. (2008) 83 (4) September 2008

GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY



GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>

— 2 —

日本遺伝学会第80回大会総会

日 時 2008年9月4日(木) 17時00分～19時00分

場 所 名古屋大学工学部 IB 電子情報館 2階

総会次第

0 議長・副議長の選出	議長 副議長	本間 道夫 古賀 章彦
1 大会委員長挨拶	委員長	森 郁恵
2 日本遺伝学会会長挨拶並びに報告	会長	品川日出夫
3 報 告		
a 幹事報告	国内庶務幹事 渉外庶務幹事 会計幹事 編集幹事 企画・集会幹事 将来計画幹事 男女共同参画推進担当 広報担当, ホームページ編集 遺伝学普及・教育担当 その他	真木 寿治 五條堀 孝 小林 武彦 遠藤 隆 岩崎 博史 山本 博章 松浦 悦子 斎藤 成也 池村 淑道
b 日本学術会議から	日本学術会議遺伝学分科会委員長	五條堀 孝
c 学会賞選考委員会報告	委員長	品川日出夫
d 選挙管理委員会報告	委員長	荒木 弘之
e 生物科学学会連合報告	委員	岩崎 博史
f その他(2009/2010年度日本遺伝学会会長挨拶)		五條堀 孝
4 議 事		
a 2007年度決算	会計幹事 会計監査	小林 武彦 関根 靖彦
b 2009年度予算案	会計幹事	小林 武彦
c 第82回大会について	企画・集会幹事	岩崎 博史
d 国内名誉会員の推薦について	会長	品川日出夫
e その他		
5 次期(第81回)大会委員長挨拶	第81回大会委員長	伊藤 健夫
日本遺伝学会木原賞・奨励賞授与式	会長	品川日出夫

1) 会員数 (2008年7月31日現在)

普 通 会 員	976 名 (内学生会員 187名)
外 国 会 員	13 名
機 関 会 員	67 件
賛 助 会 員	5 件
名 誉 会 員	国内 13 名 外国 13 名
計	1,087 名

2) 2008年度役員名簿

会 長	品川日出夫								
評議員									
全国区	平野 博之 森 郁恵	堀内 嵩 仁田坂英二	井上 弘一 館田 英典	河野 重行 田嶋 文生	倉田 のり 高畑 尚之				
北海道地区	金澤 章	鈴木 仁							
東北地区	石川 隆二	山元 大輔							
関東地区	阿部 訓也	篠崎 一雄							
東京地区	小林 一三	田村浩一郎							
中部地区	石浦 正寛	城石 俊彦							
関西地区	原島 俊	篠原 彰							
中国・四国地区	香川 弘昭	村田 稔							
九州地区	藤 博幸	矢原 徹一							
幹 事									
国内庶務幹事	真木 寿治								
渉外庶務幹事	五條堀 孝								
会計幹事	小林 武彦								
編集幹事	遠藤 隆								
企画・集会幹事	岩崎 博史								
将来計画幹事	山本 博章								
男女共同参画推進担当	松浦 悦子								
広報担当，ホームページ編集	斎藤 成也								
遺伝学普及・教育担当	池村 淑道								
会計監査	角谷 徹仁	関根 靖彦							
第80回大会委員長	森 郁恵								
学会賞選考委員会（2008）									
委員長	品川日出夫								
委 員	堀内 嵩 郷 通子	城石 俊彦（木原賞） 大坪 栄一（木原賞）	高畑 尚之 関口 睦夫						
研究助成金等推薦調査委員会（2008）									
委員長	品川日出夫								
委 員	井上 弘一 倉田 のり	石浦 正寛 村田 稔	香川 弘昭 城石 俊彦	河野 重行 篠崎 一雄	小林 一三 矢原 徹一				

3) 2007年度決算報告書（単年度）

A 収 入		(単位 円)		B 支 出		(単位 円)	
摘 要	決 算	摘 要	決 算	摘 要	決 算	摘 要	決 算
1 学 会 費	7,900,000	1 事 業 費	9,611,631				
2 賛助会費	160,000	(内 訳)					
3 科学研究費補助金	0	雑誌製作費	8,040,160				
4 事業収入	3,646,498	大会補助費	650,150				
(内 訳)		遺伝学談話会補助費	0				
雑誌売上	957,648	大会学生旅費補助	767,000				
別刷売上	2,682,076	協力委員会分担金	154,321				
利 息	6,774	2 評議委員会／幹事会費	919,049				
5 木原基金	200,000	3 事 務 費	3,718,003				
6 雑 収 入	142,385	(内 訳)					
小 計	12,048,883	雑誌発送費	864,898				
支出との差額	△ 4,141,604	封 筒 代	220,500				
7 繰り越し金より補填	4,141,604	編集経費	1,976,546				
総 計	16,190,487	事務所経費	656,059				
		4 学会賞関係費	661,464				
		5 選挙関係費	0				
		6 謝 金	1,280,340				
		小 計	16,190,487				
		7 特別事業基金	0				
		総 計	16,190,487				

4) 2008年度中間報告 (2008年 6 月30日現在)

A 収 入

(単位千円)

摘 要	(A) 予 算	(B) 1 月～6 月 収入額	(C) 7 月～12月 収入見込額	(B + C) 収入見込額
1 学 会 費	8,500	3,798	4,500	8,298
2 賛助会費	180	20	160	180
3 科学研究費助成金	4,555	2,300	0	2,300
4 事業収入	3,505	2,498	1,928	4,426
雑誌売上	1,200	1,097	724	1,821
別刷売上	2,300	1,397	1,200	2,597
利 息	5	4	4	8
5 木原基金	200	0	200	200
6 雑 収 入	50	10	90	100
小 計	16,990	8,626	6,878	15,504
総 計	16,990	8,626	6,878	15,504

B 支 出

(単位千円)

摘 要	(A) 予 算	(B) 1 月～6 月 支出額	(C) 7 月～12月 支出見込額	(B + C) 支出見込額
1 事 業 費	11,440	4,508	5,856	10,364
雑誌製作費	9,200	3,766	3,700	7,466
大会補助費	1,000	0	1,000	1,000
遺伝学談話会補助費	300	221	50	271
大会学生旅費補助費	800	0	518	518
協力委員会分担金	140	100	0	100
国際遺伝学会招致費	0	421	588	1,009
2 評議委員会／幹事会費	700	182	334	516
3 事 務 費	2,000	952	963	1,915
雑誌発送費	850	402	420	822
封 筒 代	250	0	230	230
編集経費	500	233	230	463
事務所経費	400	317	83	400
4 学会賞関係費	550	188	362	550
5 選挙関係費	900	33	867	900
6 謝 金	1,400	634	625	1,259
小 計	16,990	6,497	9,007	15,504
総 計	16,990	6,497	9,007	15,504

5) 2008年度予算案

A 収入の部		(単位千円)
摘 要	予 算	
1 学 会 費	8,500	
2 賛助会費	160	
3 科学研究費補助金	2,000	
4 事業収入	4,160	
雑誌売上	1,455	
別刷売上	2,700	
利 息	5	
5 木原基金	200	
6 雑 収 入	100	
小 計	15,120	
総 計	15,120	

B 支出の部		(単位千円)
摘 要	予 算	
1 事 業 費	9,740	
雑誌製作費	7,500	
大会補助費	1,000	
遺伝学談話会補助費	300	
大会学生旅費補助	800	
協力委員会分担金	140	
2 評議委員会／幹事会費	1,000	
3 事 務 費	2,430	
雑誌発送費	800	
封 筒 代	230	
編集経費	500	
事務所経費	900	
4 学会賞関係費	550	
5 選挙関係費	0	
6 謝 金	1,400	
小 計	15,120	
総 計	15,120	

6) 2008年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞

日本遺伝学会木原賞	池村 淑道（長浜バイオ大学バイオサイエンス学部）会員
	「遺伝子とゲノム暗号に関する実験と情報学の総合的研究」
日本遺伝学会木原賞	田嶋 文生（東京大学大学院理学系研究科）会員
	「進化集団遺伝学に関する理論的および統計学的研究」
日本遺伝学会奨励賞	増田 雄司（広島大学原爆放射線医科学研究所）会員
	「突然変異誘発と遺伝的安定性に関する DNA 複製反応の解析」
日本遺伝学会奨励賞	梶屋 啓志（理化学研究所筑波研究所バイオリソースセンター）会員
	「マウス変異体を基盤とした形態形成の遺伝制御機構の研究」

7) 協力委員会

同位元素協会委員	蓮沼 仰嗣
自然史学会連合委員	館野 義男
生物科学学会連合委員	石和 貞男（国際生物学オリンピック委員）
	岩崎 博史

8) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール

件 名	助 成 団 体 名	締 切
研究助成金	(財) 山田科学振興財団	2009年 3 月31日 (火)
猿橋賞	女性科学者に明るい未来をの会	2008年11月30日 (日)
東レ科学技術賞・研究助成	(財) 東レ科学振興会	2008年10月10日 (金)
沖縄研究奨励賞	(財) 沖縄協会	2008年 9 月30日 (火)
朝日賞	朝日新聞社	2008年 8 月29日 (金)
研究調査助成	(財) 日本証券奨学財団	2008年 8 月 8 日 (金)
科学技術賞及び若手科学者賞	文部科学省	2008年 7 月18日 (金)
木原記念財団学術賞	(財) 木原記念横浜生命科学振興財団	2008年 9 月30日 (火)
基礎科学研究助成	(財) 住友財団	2008年 6 月30日 (月)
環境研究助成	(財) 住友財団	2008年 6 月30日 (月)
藤原セミナー	(財) 藤原科学財団	2008年 7 月31日 (木)
加藤記念国際交流助成	(財) 加藤記念バイオサイエンス研究 振興財団	前期 平成20年 5 月31日 後期 平成20年 8 月31日
持田記念学術賞	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2008年 7 月31日 (木)
研究助成金	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2008年 6 月27日 (金)
留学補助金	(財) 持田記念医学薬学振興財団	2008年 6 月27日 (金)
井上学術賞	井上科学財団	2008年 9 月20日 (土)
井上研究奨励賞	井上科学財団	2008年 9 月20日 (土)
久保亮五記念賞	井上科学財団	2008年 6 月30日 (月)
バイオインダストリー協会	(財) バイオインダストリー協会	2008年 6 月30日 (月)
国際生物学賞	日本学術振興会国際生物学賞委員会	2008年 5 月16日 (金)
山崎貞一賞	材料科学技術振興財団	2008年 4 月30日 (水)
藤原賞	(財) 藤原科学財団	2008年 1 月31日 (木)
脳と創造性に関する研究助成	NPO 法人 ニューロクリアティブ研究会	2008年 1 月31日 (木)
研究集会助成	(財) ノバルティス科学振興財団	2007年 9 月30日 (日)
内藤記念科学振興賞	内藤記念科学振興財団	2007年10月 1 日 (月)
内藤記念海外学者招へい助成	内藤記念科学振興財団	前期 2007年 6 月 1 日 (金) 後期 2007年10月 1 日 (月)

各種助成金の募集

学会の推薦を必要とする場合は学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締め切る。尚、各助成金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

9) 2009・2010年度会長・評議員選挙結果

会 長	
	五條堀 孝
次 点	堀内 嵩
評議員	
全 国 区	定数10名
	真木 寿治 颯田 葉子 荒木 弘之 館田 英典 田嶋 文生 堀内 嵩 小林 武彦 片山 勉 森 郁恵 高畑 尚之
次 点	城石 俊彦 中別府雄作 仁田坂英二 五條堀 孝 郷 通子
北海道地区	定数 2 名
	松田 洋一 金澤 章
次 点	黒岩 麻里
関東地区	定数 2 名
	荻原 保成 牧野 耕三
次 点	井上 弘一
中部地区	定数 2 名
	石浦 正寛 伊藤 建夫
次 点	斎藤 成也
中国・四国地区	定数 2 名
	杏掛 和弘 和多田正義
次 点	香川 弘昭
東北地区	定数 2 名
	山元 大輔 山本 和生
次 点	渡辺 正夫
東京地区	定数 2 名
	関根 靖彦 田村浩一郎
次 点	太田 邦史
関西地区	定数 2 名
	篠原 彰 菱田 卓
次 点	下田 親
九州地区	定数 2 名
	藤 博幸 関口 睦夫
次 点	仁田坂英二

日本遺伝学会選挙管理委員会

荒木 弘之（委員長），大田 竜也，佐渡 敬

2009・2010年度日本遺伝学会会長および評議員選挙投票率

	有権者数	投票者数	会長	全国区	地方区
北 海 道 地 区	39	5	5	5	5
東 北 地 区	40	13	13	13	13
関 東 地 区	257	44	44	44	44
東 京 地 区	137	28	28	28	28
中 部 地 区	184	41	41	39	39
関 西 地 区	153	28	28	27	27
中国・四国地区	94	16	16	16	16
九 州 地 区	79	19	19	18	18
合 計	983	194	194	190	190
投 票 率 (%)		19.7	19.7	19.3	19.3

10) 年次大会開催地一覧

回	年	月	日	会 場	回	年	月	日	会 場
1	1928(昭3)	10月	19日	九州帝国大学農学部	41	1969(昭44)	10月10～12日		金沢大学工学部
2	1929(昭4)	7月	26日	北海道帝国大学農学部	42	1970(昭45)	10月5～7日		東京女子大学短期大学部
3	1930(昭5)	10月	31日	東京農事試験場	43	1971(昭46)	10月20～22日		九州大学理学部・農学部
4	1931(昭6)	10月	31日	京都帝国大学・楽友会館	44	1972(昭47)	10月7～9日		岡山大学理学部・法文学部
5	1932(昭7)	10月	14日	名古屋医科大学	45	1973(昭48)	10月14～16日		名古屋大学農学部
6	1933(昭8)	10月	26日	広島文理科大学 動物学教室	46	1974(昭49)	9月10～12日		福祉会館（仙台）
7	1934(昭9)	12月	21日	台北帝国大学 生物学教室	47	1975(昭50)	10月3～5日		日本大学三島校舎
8	1935(昭10)	10月	21日	金沢医科大学 法医学教室	48	1976(昭51)	10月28～30日		日本生命中之島研究所（大阪）
9	1936(昭11)	10月	16日	岡山医科大学 生理学教室	49	1977(昭52)	9月28～30日		北海道経済センター（札幌）
10	1937(昭12)	7月	31日	北海道帝国大学理学部	50	1978(昭53)	10月8～10日		東京農業大学
11	1938(昭13)	10月	13～15日	九州帝国大学農学部・医学部・九州小麦試験地	51	1979(昭54)	10月11～13日		京都大学農学部
12	1939(昭14)	10月	14～15日	科学博物館（東京）	52	1980(昭55)	10月6～8日		富山大学教養部
13	1940(昭15)	8月	27～28日	京城帝国大学医学部	53	1981(昭56)	10月12～14日		広島大学総合科学部
14	1941(昭16)	地方談話会大会（6会場）		（総会予定地は仙台）	54	1982(昭57)	11月19～21日		九州大学医学部
15	1942(昭17)	10月	27～28日	東北帝国大学 農学研究所	55	1983(昭58)	10月8～10日		東北大学教養部
16	1943(昭18)	10月	20～21日	京都帝国大学・楽友会館	56	1984(昭59)	11月23～25日		日本大学国際関係学部
17	1944(昭19)	地方談話会大会（7会場）		（総会予定地は名古屋）	57	1985(昭60)	10月13～15日		神戸大学農学部・理学部・自然科学系
18	1946(昭21)	11月	18～19日	静岡高等学校	58	1986(昭61)	12月4～7日		名古屋観光ホテル
19	1947(昭22)	10月	21～22日	松本高等学校	59	1987(昭62)	10月29～30日		筑波大学生物科学系
20	1948(昭23)	10月	23～24日	高野山	60	1988(昭63)	10月8～10日		京都大学農学部
21	1949(昭24)	10月	20～22日	名古屋大学理学部	61	1989(平元)	10月13～15日		北海道大学学術交流会館
22	1950(昭25)	10月	14～16日	東京大学医学部	62	1990(平2)	10月4～6日		お茶の水女子大学
23	1951(昭26)	10月	11～12日	広島大学教養部	63	1991(平3)	10月16～18日		九州大学箱崎キャンパス
24	1952(昭27)	10月	8～10日	新潟大学医学部	64	1992(平4)	10月22～24日		仙台国際センター
25	1953(昭28)	11月	7～8日	国立遺伝学研究所	65	1993(平5)	9月17～19日		日本大学国際関係学部
26	1954(昭29)	10月	28～30日	京都大学医学部	66	1994(平6)	10月8～10日		大阪大学医学部講義棟
27	1955(昭30)	10月	16～18日	岡山大学	67	1995(平7)	10月12～14日		岡山大学一般教育講義
28	1956(昭31)	10月	6～8日	富山市公会堂	68	1996(平8)	10月3～5日		名古屋・椋山女学園大学
29	1957(昭32)	9月	3～5日	北海道大学農学部	69	1997(平9)	11月1～3日		横浜市立大学瀬戸キャンパス
30	1958(昭33)	10月	16～19日	名古屋大学医学部	70	1998(平10)	9月23～25日		北海道大学学術交流会館
31	1959(昭34)	11月	4～7日	大阪大学医学部	71	1999(平11)	9月24～26日		広島大学理学部・法学部・経済学部
32	1960(昭35)	10月30日～11月1日		九州大学工学部	72	2000(平12)	11月3～5日		京都大学農学部・京都公会館会議場
33	1961(昭36)	9月	1～3日	東北大学川内分校	73	2001(平13)	9月22～24日		お茶の水女子大学
34	1962(昭37)	10月	17～18日	日本大学文理学部三島校舎	74	2002(平14)	10月1～3日		九州大学箱崎キャンパス
35	1963(昭38)	10月	8～10日	東京大学教養学部	75	2003(平15)	9月24～26日		東北大学川内キャンパス
36	1964(昭39)	10月	18～20日	愛媛大学	76	2004(平16)	9月27～29日		大阪大学コンベンションホール
37	1965(昭40)	10月	18～20日	京都大学医学部・楽友会館	77	2005(平17)	9月27～29日		国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）
38	1966(昭41)	8月	10～12日	北海道大学教養部	78	2006(平18)	9月25～27日		つくば国際会議場
39	1967(昭42)	10月	9～11日	神戸大学教養部	79	2007(平19)	9月19～21日		岡山大学
40	1968(昭43)	10月	7～9日	広島大学教養部・政経学部	80	2008(平20)	9月3～5日		名古屋大学

✧名誉会員および学会賞受賞者の紹介✧

名 誉 会 員



森脇 和郎 会員



関口 睦夫 会員

日 本 遺 伝 学 会 木 原 賞



池村 淑道 会員
(長浜バイオ大学バイオ
サイエンス学部教授)

「遺伝子とゲノム暗号に関する実験と情報
学の総合的研究」

Experimental and informatics studies of
gene and genomic codes



田嶋 文生 会員

(東京大学大学院理学系研究科教授)
「進化集団遺伝学に関する理論的および統
計学的研究」

Theoretical and statistical studies of evo-
lutionary population genetics

日 本 遺 伝 学 会 奨 励 賞



増田 雄司 会員

(広島大学 原爆放射線医科学研究所助教)
「突然変異誘発と遺伝的安定性に関する
DNA 複製反応の解析」

Molecular analysis of DNA replication
concerned with mutagenesis and genetic
stability



榎屋 啓志 会員

(理化学研究所筑波研究所バイオリソース
センターユニットリーダー)

「マウス変異体を基盤とした形態形成の遺
伝制御機構の研究」

Study on genetic regulation of morpho-
genesis based on mouse mutants

第11回 遺伝学談話会レポート

日 時： 2008年 5月 9日, 10日

場 所： 北海道大学 大学院地球環境科学研究院

本年度3回目の遺伝学談話会は北海道支部の主催で札幌の北大キャンパス内で開催されました。談話会は2日間にわたる学術講演と交歓会で構成され、道内はもとより宮崎、新潟、東京からも参加者が集い、総勢70名ほどでにぎやかに行われました。演題発表は11題あり、うち若手の研究者による発表も6題ありました。

今回は、「日本の野生生物と遺伝学」と題して、我が国に生息する野生生物で、これまで遺伝学的发展に寄与してきた生物種（例えば、ハツカネズミ、メダカ、ダイズ、エンレイソウ）、ならびに、今後、大いに貢献しうる生物種（例えば、トゲネズミ、アカネズミ）について各演者から最新の研究内容の紹介がありました。講演者と演題は以下のとおりです（敬称略）。

5月9日：

安田 俊平（北海道大学）「ニホンヤマネの系統地理」

阿部 純（北海道大学）「野生ダイズの遺伝的多様性—栽培ダイズとの関わり合い—」

黒岩 麻里（北海道大学）「アマトゲネズミにおけるY染色体消失過程の推定 — Y連鎖遺伝子の運命—」

酒泉 満（新潟大学）「SNP から見た、北のメダカと南のメダカの境界に分布する集団の特徴と起源」

山岸 洋貴（北海道大学）「生育地の孤立分断化が多年生草本オオバナノエンレイソウに与える遺伝的影響」

城石 俊彦（国立遺伝学研究所）「ゲノム解読から見えてきた汎用実験用マウス系統の起源」

5月10日：

松原 和純（北海道大学）「FISH 法を用いたアカネズミ類における核型進化の研究」

友澤 森彦（北海道大学）「アカネズミ核型変異と遺伝的構造」

篠原 明男・二若 久美・越本 知大（宮崎大学）「*Apodemus sylvaticus* のモデル動物としての育成にむけて」

森脇 和郎（理研バイオリソースセンター）「バイオリソースとしての *Apodemus* と *Peromyscus*」

山岸 学（新潟大学）「シンプルなハイブリッドゾーンから何がわかるか—アカネズミの特性を活かして—」

日本列島の野生生物は多様性のレベルが高く、バイオリソースとしての価値が高いことから、当初は、本談話会は将来において日本の野生生物が研究対象として如何に有望であるかを認識する会になるものと予測していました。その目的はおおむね達成され、それに加えて、個々の研究内容が示す学問的興味に参加者が興奮するという会になりました。交歓会では、飲食をしながらのくつろいだ雰囲気の中で、大学院生を含む以下の若手の研究者による研究紹介がありました（敬称略）：望月英志（東京農業大学）、石川昌志（東京農業大学）、村田知恵（北海道大学）、富田 宏（新潟大学）、津田 薫（理化学研究所）、布目 三夫（北海道大学）。個々の発表に対して、質問・助言が飛び交い、発表者の方々にとっては酔いが醒めそうな状況だったかもしれません。森脇和郎会員からは、「curiosity driven の研究に勝るものはなく、大学の研究者はうらやましい」という本音のような皮肉のようなお言葉も頂きました。短期的な成果を求めるプロジェクト研究とは相容れない面を持つ野生生物の研究を継続させている研究者に対する激励と受け止めたいと思います。

今回の談話会では、さまざまな野生生物の持っている潜在的な魅力を遺伝学という共通の視点から探求した成果に触れることにより、研究対象の異同に関連した研究アプローチの独創性を浮き彫りにできる効果があったように感じました。一方で、皮肉なことに、そのような遺伝学研究の「宝の山」である我が国の自然環境の脆弱性自体が、遺伝学の研究を通して認識されるという報告もありました。調べれば調べるほど遺伝学者にとっては興味深いことが明らかになる野生生物の研究ですが、それを社会にどのような形で還元していくのか、その関係性を構築する必要があることを考えさせられます。今回の講演にあった希少種オキナワトゲネズミの再発見が遺伝学者以外の多くの人々にも朗報として認知されたことには、その背景として、近縁種における染色体研究の成果による知的興味をそそる付加価値の存在が大きく寄与していたと言えます。この例にあるように、身近な地域に存在する野生生物の持つ神秘性とその背景にある遺伝学研究の成果の紹介は、研究成果を社会還元する一つの方向性を与えるものであると今回の講演から実感しました。

（北海道支部遺伝学談話会世話人・鈴木 仁、金澤 章）

第11回 遺伝学談話会 「日本の野生生物と遺伝学」

日 時： 平成20年5月9日（金）午後1時より5月10日（土）正午まで

場 所： 北海道大学 大学院地球環境科学研究院
〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目

概 要： 日本の野生生物はこれまで遺伝学の発展に大きく貢献してきた。本談話会では、講演および交歓会を通してその現状を確認するとともに、今後、遺伝学の研究対象として、どのような野生生物に期待できるのかについて考えた。

5月9日（金）1日目

場 所： 大学院地球環境科学研究院 講堂

座 長： 鈴木 仁・金澤 章（北海道大学）

1：00－1：30 安田 俊平（北海道大学）

ニホンヤマネの系統地理

1：30－2：00 阿部 純（北海道大学）

野生ダイズの遺伝的多様性—栽培ダイズとの関わり合い—

2：00－2：30 黒岩 麻里（北海道大学）

アマミトゲネズミにおけるY染色体消失過程の推定—Y連鎖遺伝子の運命—

2：30－3：00 酒泉 満（新潟大学）

SNP から見た、北のメダカと南のメダカの境界に分布する集団の特徴と起源

休 憩

4：30－5：00 山岸 洋貴（北海道大学）

生育地の孤立分断化が多年生草本オオバナノエンレイソウに与える遺伝的影響

5：00－5：30 城石 俊彦（国立遺伝学研究所）

ゲノム解読から見てきた汎用実験用マウス系統の起源



安田俊平 氏

コメンテーター

森脇 和郎（理研バイオリソースセンター）

土屋 公幸（（株）応用生物）

阿部 訓也（理研バイオリソースセンター）

山本 博章（東北大学）

吉川 欣亮（東京農業大学）

大原 雅（北海道大学）



阿部 純 氏



黒岩麻里 氏

6：00－8：00

交歓会

場 所： 大学院地球環境科学研究院 C104室



酒泉 満 氏



山岸洋貴 氏



城石俊彦 氏



土屋公幸 氏



山本博章 氏



松原和純 氏



友澤森彦 氏



篠原明男 氏

大学院生を含む若手の研究者による研究紹介を行い、遺伝学に興味のある学部学生、大学院生、および研究者が「野生生物と遺伝学」というテーマでざくばらんに意見交換を行った。

参加費：簡素な飲食の実費を徴収

5月10日（土）2日目

場 所： 大学院地球環境科学研究所 C104室

座 長： 松田 洋一（北海道大学）

10：00－10：20 松原 和純（北海道大学）

FISH法を用いたアカネズミ類における核型進化の研究

10：20－10：40 友澤 森彦（北海道大学）

アカネズミ核型変異と遺伝的構造

10：40－11：00 篠原 明男・二若 久美・越本 知大（宮崎大学）

Apodemus sylvaticus のモデル動物としての育成にむけて

11：00－11：20 森脇 和郎（理研バイオリソースセンター）

バイオリソースとしての *Apodemus* と *Peromyscus*

11：20－11：40 山岸 学（新潟大学）

シンプルなハイブリッドゾーンから何がわかるか—アカネズミの特性を活かして—



森脇和郎 氏



山岸 学 氏

コメンテーター

土屋 公幸（（株）応用生物）

酒泉 満（新潟大学）

世 話 人

鈴木 仁（htsuzuki@ees.hokudai.ac.jp, tel: 011-706-2279）

金澤 章（kanazawa@res.agr.hokudai.ac.jp, tel: 011-706-3873）



猿橋賞募集のお知らせ

女性科学者に明るい未来をの会は 第29回女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」の推薦の募集を開始いたしました。募集要領をホームページ <http://www.saruhashi.net/> に掲載致しましたので、推薦書類はそこからダウンロードして下さるようお願い致します。

【財団へ推薦を希望される方へ】

以下の書類を学会締切までに学会事務局へお送りください。

1. 財団への提出書類（推薦書＋別刷論文（提出部数））
2. 調査委員への調査依頼用書類（推薦書＋別刷論文コピー）11部

【学会締切：10月30日（木） 財団締め切り：11月30日（日）】

記

- 1) 対 象： 推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めている女性科学者
- 2) 表彰内容： 賞状、副賞として賞金30万円、1件（1名）
- 3) 応募方法： 所定の用紙（当会のホームページからダウンロード）に、推薦者（個人・団体、自薦も可）・受賞候補者の略歴、推薦対象となる研究題目・推薦理由（800字程度）、及び主な業績リスト（指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです）を記入して、主な論文別刷10編程度（2部ずつ、コピーも可）を添え、5)の推薦書類送付先までお送り下さい。
- 4) 締 切 日： 2008年11月30日
- 5) 推薦書類送付先： 〒247-0022 横浜市栄区庄戸 5-14-3

女性科学者に明るい未来をの会

（封筒には、「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい）

なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2008@saruhashi.net

女性科学者に明るい未来をの会

saruhashi2008@saruhashi.net

第3回アジア染色体コロキウムのご案内

第3回アジア染色体コロキウムを2008年12月1日から4日にかけて開催いたします。

アジア染色体コロキウムは1998年北京での第18回国際遺伝学会の際に日本・中国・韓国・タイ国の研究者により染色体研究の最前線を探り、且つ若手が自由に参加し発表できるフォーラムをアジアに広げる合意がなされました。それに基づき、2001年に北京で第1回アジア染色体コロキウムが、次いで2004年に韓国で2回目が開催されました。第3回目となる今回は、染色体コロキウムと染色体学会と合同で、わが国で開催することになりました。

染色体研究分野は、近年、縮小傾向にありました。このような状況の中でも、ヨーロッパでは国際クロモソームカンファレンスが3年に一回ヨーロッパ内の都市で開催され、アメリカでは毎年サンディエゴで細胞遺伝学シンポジウムが開催されており、これらの地域ではすでに強いネットワークが確立しております。一方、アジアではこのネットワークが非常に弱く、特定の染色体領域、あるいは個人レベルでのネットワークにとどまっています。そこで、第3回アジア染色体コロキウム開催を機に、新たな染色体研究の交流の場として再構築し、アジア全域へ拡大し、染色体研究の協力体制を作り上げることになりました。

この大会を成功させるためにも、皆様の参加をお願いいたします。

詳細は下記の WEB サイトを参照してください.

<http://www.acc3.jp>

第 3 回アジア染色体コロキウム (ACC3; The 3rd Asian Chromosome Colloquium 2008)

染色体研究の新展開 ——アジア染色体研究ネットワークの構築——

Advances in Chromosome Sciences —— Development of Chromosome Research Network in Asia ——

会 期： 2008年12月1日 (月)～4日 (木)

会 場： 大阪大学 コンベンションセンター (大阪府吹田市山田丘)

主 催： 第3回アジア染色体コロキウム・第18回染色体コロキウム・第59回染色体学会

後 援： 日本遺伝学会・日本育種学会・日本植物学会・日本人類遺伝学会

大会参加・講演申し込み：

詳しくは第3回アジア染色体コロキウム (ACC3) のホームページ (<http://www.acc3.jp>) をご覧ください。ここに詳細な情報は逐次掲載していきます。

プログラム (講演内容など)：

3つのプレナリーレクチャー (基調講演) と6つのシンポジウムを設定しており、その他にもワークショップやポスター発表を準備しておりますので、皆様のご参加宜しく願いたします。

予定されている題目や発表者は、次のようになっております (タイトル未決定のものも含みます)。

[Plenary lectures]

『New technology in chromosome research』

Kiichi Fukui (Osaka University)

Recent advances in chromosome research

Tatsuo Ushiki & Osamu Hoshi (Niigata University)

Scanning probe microscopy of human chromosomes

Eiichi Tamiya (Osaka University) Chromosome chip technology (Tentative)

Paul Fransz (Amsterdam University) Advances in EDF-FISH (Tentative)

『Application of chromosome research to medicine and agriculture』

Umesh C. Lavania (Central Institute of Medicinal and Aromatic Plants, India)

Applied chromosome studies in medicine and agriculture

Mitsuo Oshimura (Tottori University)

Construction of human artificial chromosome and the medical applications

Yasuhiko Mukai (Osaka Kyoiku University)

New frontiers of chromosome sciences for sustainable agriculture

[Symposium]

『3D nuclear architecture: chromosome territories and nuclear dynamics』

Hyockman Kwon (Hankuk University of Foreign Studies)

Control of DNA replication by BAF53-dependent higher-order chromatin structure

Masahiko Harata (Tohoku University)

Involvement of the actin-related protein Arp6 in spatial organization of radial chromosome territories

Takanori Amano (National Institute of Genetics)

Gene kissing: A remote enhancer-promoter interaction regulates expression of Sonic hedgehog in mouse limb buds

Hideyuki Tanabe (The Graduate University for Advanced Studies, Sokendai)

Chromosome kissing events for gene regulation and genomic evolution

『Neotechnologies for chromosome engineering in plant』

- Kiyotaka Nagaki (Okayama University)
Dynamic behavior of artificial chromosome in plant
- Nobuko Ohmido (Kobe University)
High-resolution FISH for gene mapping and molecular analysis of plant chromosomes.
- 『Molecular regulation of chromosome assembly and segregation』
- Jibak Lee (RIKEN)
Molecular Mechanisms of Meiotic Chromosome Behavior in Mouse Oocytes
- Miho Ohsugi (University of Tokyo)
Kid-Mediated Anaphase Chromosome Compaction Safeguards Mouse Early Embryos Against Multinuclear Formation
- Kazuhiro Maeshima (RIKEN)
Mitotic Chromosome Structure: Irregular Folding of Nucleosome Fiber
- Kohta Takahashi (Kurume University)
Heterochromatin Integrity Affects Chromosome Reorganisation after Centromere Dysfunction
- 『Chromosome Engineering in Horticultural Plants』
- Aziz Purwantoro (Gadjah Mada University, Indonesia)
Sex identification on Snakefruit (*Salacca zalacca*) revealed by fluorescence banding pattern
- Masayoshi Shigyo (Yamaguchi University)
Applications and impact of alien-chromosome addition lines to studies on genetics and breeding in the genus *Allium*
- Takato Koba (Chiba University)
Phylogenetic analysis in the genus *Lycoris*
- 『Chromosome Engineering in cereals』
- T. R. Endo (Kyoto University)
Genome shuffling in Triticeae
- M. Kishii (CIMMYT-International Maize and Wheat Improvement Center, Mexico)
Application of chromosome engineering for wheat breeding in CIMMYT
- H. K. Chaudhary (Himachal Pradesh Agricultural University, India)
Dynamics of doubled haploidy breeding and molecular cytogenetic approaches in wheat (tentative)
- 『Chromosome aberrations induced by low dose radiation』
- Kimio Tanaka & Atushi Kohda (Institute for Environmental Sciences, Aomori)
Dose and dose-rate effects on chromosome aberrations in splenocytes from mice continuously exposed to low-dose-rate gamma-rays
- Toshiyasu Iwasaki (Central Research Institute of Electric Power Industry, Tokyo)
Dose response of chromosome aberrations at very low dose range
- Chunyan Wang (Chinese Center for Disease Control and Prevention, Beijing, China)
Chromosome aberrations observed in high levels of natural radiation areas in China (Tentative)
- Wei Zhang (Chinese Center for Disease Control and Prevention, Beijing, China)
Effect of smoking on the chromosome aberrations induced by environmental mutagens (Tentative)

大会運営組織：

【Organizers】

- Kenji Taniguchi (Hiroshima University)
Xueyong Zhang (Chinese Academy of Agricultural Sciences)
Yoichi Matsuda (Hokaido University)
Takato Koba (Chiba University)
Youzhi Ma (Chinese Academy of Agricultural Sciences)

【International Steering Committee】

(Japan)

Kiichi Fukui, Tatsurou Ikeuchi, Takato Koba, Yoichi Matsuda, Yasuhiko Mukai, Kenji Taniguchi, Hisashi Tsujimoto

(China)

Xiangrong Cao, Gulu Liang, Youzhi Ma, Wenqin Song, Daming Zhang, Xueyong Zhang

(Korea)

Jae-Wook Bang, Nam-Soo Kim, Bong Bo Seo

(India)

Harindra Singh Balyan, Harinder Kumar Chaudhary, Umesh Chandra Lavanaia

(Thailand)

Somsak Apisitwanich

【Executive Committee】

Shuichi Abe, Nobuko Ohmido, Takao Ono, Yoshitaka Obara, Souichiro Kubota, Asato Kuroiwa, Ken Saihara, Go Suzuki, Hideyuki Tanabe, Hiroyuki Tateno, Masashi Nakata, Sachihito Matsunaga, Ikuo Miura, Maki Yamamoto, Toshiyuki Wako, Sumire Inaga, Akinori Uchino

ご不明の点などございましたら、下記連絡先までメールにてお問い合わせください。

大会事務局 WEB 担当・若生俊之

E-mail: acc3@acc3.jp

大会事務局広報担当・鈴木 剛

〒582-8582 柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学 教養学科自然研究講座

大会委員長・谷口研至

E-mail: taniken@hiroshima-u.ac.jp

Tel: 082-424-7491, Fax: 082-424-2471

〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1

広島大学大学院理学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設



◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

沖 昌 也	910-8507	福井市文京3-9-1 福井大学大学院 工学研究科 生物応用化学専攻
(独) 農業生物資源研究 所大わし図書室	305-8634	茨城県つくば市大わし1-2
坂 井 貴 臣	192-0397	東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京 理工学研究科 生命科学専攻
Satbhai Santosh Balasaheb	464-8601	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 情報科学研究科
相 澤 康 則	226-8501	横浜市緑区長津田町4259 B1-714 (ポスト B64) 東京工業大学 バイオ研究基盤支援総合センター



今井早希	464-8601	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学 生命農学研究科・バイオモデリング講座・ 動物機能制御学研究室
田中若奈	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院 理学部2号館 進化遺伝学研究室東京大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻
一柳健司	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所 人類遺伝研究部門
高橋正和	374-0019	群馬県邑楽郡泉野1-1-1 東洋大学板倉キャンパス東洋大学大学院 生命科学研究科
若林道香	338-8570	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学 理工学研究科 遺伝学研究室
Roy Shradha	113-8657	東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院 農学生命科学研究科
山口晶大	526-0829	滋賀県長浜市田村町1266 長浜バイオ大学
片平絵美子	980-8578	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学大学院 生命科学研究
檜作洋平	464-8602	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科生命理学専攻
延命大士	464-8602	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科生命理学専攻
下和田智康	464-8602	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科生命理学専攻
藤川和世	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所 集団遺伝学部門高野研究室
増田健太	171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学 理学研究科
田上和美	171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学 理学研究科
武田深幸	810-8560	九州大学大学院 理学部生物科学専攻 細胞機能学講座 進化遺伝学研究室
石川健	108-8639	東京都港区白金台4-6-1 東大医科研2号館2階 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻
山田康嗣	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 理学部7号館 遺伝子実験施設 東京大学 理・生
新屋みのり	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所 系統生物研究センター
山道真人	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村） 総合研究大学院大学 生命共生体進化学専攻
吉田和史	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 理学部7号館605 東京大学大学院 理学系研究科生物化学専攻
藤村真	374-0193	群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1 東洋大学 生命科学部
千々岩崇仁	860-0082	熊本市池田4-22-1 崇城大学 生物生命学部
渡邊孝明	444-8585	愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38 基礎生物学研究所 ゲノム動態研究部門
立川誠	464-0814	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻
山下正博	305-8566	茨城県つくば市東1-1-1中央第6-12棟 産業技術総合研究所 脳神経情報研究部門
石井健太郎	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学 遺伝子実験施設植物ゲノム解析分野

宮 良 晶 子	464-8602	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 分子神経生物学
小 野 明美	444-8585	愛知県岡崎市明大寺西郷中38 基礎生物学研究所
諸 岡 直 樹	444-8585	愛知県岡崎市明大寺町西郷中38 基礎生物学研究所 ゲノム動態研究部門
高 橋 健 一	526-0829	滋賀県長浜市田村町1266番地 長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部
畠 山 晋	338-8570	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学 科学分析支援センター
深 松 陽 介	244-0813	横浜市戸塚区舞岡町641-12 横浜市立大学 木原生物学研究所 細胞遺伝学部門
MD EMDADUL HAQUE	244-0813	横浜市戸塚区舞岡町641-12 横浜市立大学 木原生物学研究所 細胞遺伝学部門
倉 島 公 憲	338-0825	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学 院理工学研究科
武 藤 梨 沙	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学 遺伝子実験施設
佐 藤 豊	464-8601	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 生命農学研究科
飯 田 高 広	464-8602	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻
村 上 怜 子	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学 遺伝子実験施設
丹 羽 由 実	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学 遺伝子実験施設
近 藤 大 哲	338-0825	埼玉県さいたま市桜区大字下大久保255 理学部三号館 埼玉大学大学院 理工学研究科 遺伝情報研究室
五條堀 淳	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町上山口字間門1560-35 総合研究大学院大学 葉山高等研究センター
内 村 有 邦	565-0871	吹田市山田丘1-3 大阪大学 生命機能研究科 八木研究室
近 藤 友 貴	657-0013	神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学 農学研究科 生命機能化学専攻 植物病理学研究室
佐 藤 明 子	464-8602	名古屋市千種区不老町1 名古屋大学 高等総合研究館204 名古屋大学大学院 理学研究科生命理学専攻
森 沙 織	564-8071	大阪府吹田市山田丘3-2 大阪大学 蛋白質研究所
岩 崎 まゆみ	487-8501	愛知県春日井市松本町1200 中部大学 植物バイオ研究センター
篠 崎 沙 織	812-8582	福岡県福岡市東区馬出3-1-1 九州大学 薬学部
勝 村 啓 史	277-8562	千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学 生命棟502 東京大学 大学院新領域創成科学研究科
小 倉 淳	112-8610	文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学
村 田 聡 樹	657-8501	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院 農学研究科 植物病理学研究室
武 田 悠	980-8578	仙台市青葉区荒巻字青葉6-30 東北大学 生命科学研究所 生命機能科学専攻多様化機構分野
Jurado Paola	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科
西 尾 奈 々	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科

鈴木 誉 保	650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町2-2-3 理研・CDB・形態進化
大久保 玲 子	223-8522	神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1 慶応義塾大学 理工学部生命情報学科
杉 拓 磨	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 理学研究科森研究室
久 郷 和 人	351-0198	埼玉県和光市広沢2-1 独立行政法人理化学研究所 基幹研究所 柴田遺伝制御科学研究室 (連絡先自宅のため不掲載)
五十嵐 久美子		(連絡先自宅のため不掲載)
畦 岡 博		(連絡先自宅のため不掲載)
寺久保 洋		(連絡先自宅のため不掲載)
西 河 良 諭		(連絡先自宅のため不掲載)
杉 山 信一郎		(連絡先自宅のため不掲載)
小 澤 恵 代		(連絡先自宅のため不掲載)
小保方 潤 一		(連絡先自宅のため不掲載)
関 口 猛		(連絡先自宅のため不掲載)
田 子 友一郎		(連絡先自宅のため不掲載)
安 藤 沙友里		(連絡先自宅のため不掲載)
岩 田 真 也		(連絡先自宅のため不掲載)
池 田 美 央		(連絡先自宅のため不掲載)
積 田 知 佳		(連絡先自宅のため不掲載)
山 下 和 宏		(連絡先自宅のため不掲載)
工 藤 久 幸		(連絡先自宅のため不掲載)
岡 田 龍		(連絡先自宅のため不掲載)
陶 蕾 蕾		(連絡先自宅のため不掲載)
山 本 亜 希		(連絡先自宅のため不掲載)
谷 村 遊		(連絡先自宅のため不掲載)

連 絡 先 変 更

河 合 洋 介	525-8577	滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学 生命科学部 生命情報学科 (連絡先自宅のため不掲載)
高 橋 三保子		(連絡先自宅のため不掲載)
由 良 敬	112-8610	東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
前 川 秀 彰	903-0213	沖縄県西原町字千原1番地 琉球大学 分子生命科学研究センター 遺伝子機能解析分野
金 子 聡 子	112-8610	東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 生命情報学教育研究センター
井 川 武	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町 (湘南国際村) 総合研究大学院大学 葉山高等研究センター
成 瀬 清	444-8585	愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38番地 基礎生物学研究所 バイオリソース研究室
ADACHI, Shun		B08 Bauer Lab FAS Center for Systems Biology Harvard University 7 Divinity Ave., Cambridge MA 02138 USA
由 比 良 子	464-8602	愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学 理学部B館311室 (東山研究室)
楠 見 淳 子	569-1125	大阪府高槻市紫町1-1 株式会社生命誌研究館 研究部門
宅 野 将 平	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町 国立大学法人総合研究大学院大学 葉山高等研究センター 印南研
山 本 大 介	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-1 自治医科大学 感染免疫学講座 医動物学部門

佐々木 剛	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 生物物理学教室
藤 井 智 明	108-8639	東京都港区白金台4-6-1 東京大学医科学研究所 先端医療センター 臨床ゲノム腫瘍学分野
嶋 田 誠	135-0064	東京都江東区青海2-42 産業技術総合研究所臨海副都心センター別館 バイオ・IT 融合研究棟 7F (社) バイオ産業情報化コンソーシアム (JBIC) 生物情報解析研究センター (JBIRC) 統合データベース解析チーム (IDB)
井 手 聖	411-8540	静岡県三島市谷田1111 情報・システム研究機構 国立遺伝学会研究所 細胞遺伝研究部門
齋 藤 久 美	999-7601	山形県鶴岡市藤島町山ノ前25 山形県農業総合研究センター 農業生産技術試験場 庄内支場
後 藤 真帆摩	630-8301	奈良市高畑町184番地 厚生労働省奈良労働局奈良公共職業安定所
上 谷 浩 一		National Institute of Education 1, Nanyang Walk, Singapore 637616
孫 田 信 一	464-0858	名古屋市千種区千種2-22-8 有限会社胎児生命科学センター
嶋 田 誠	470-1192	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 遺伝子発現機構学研究部門
寺 東 宏 明	849-8501	佐賀市鍋島5丁目1-1 佐賀大学 総合分析実験センター機器分析部門

退 会

高倉千裕, 高橋 亮, 前田祐子, 中川 草, 秋丸仁朗, 石和玲子, 安田徳一, 白岩 敬, 劉 慶信, 藤本龍, 葛 黎穎, FREDERICK, ANOKYE-DANSO, 生田享介, 川島一剛, 大屋知子

訃 報

黒 田 行 昭 (普 通 会 員) 2008年5月21日に逝去されました。享年82歳
 LEDERBERG, J. (外国名誉会員) 2008年2月2日に逝去されました。享年82歳
 田 中 隆 荘 (国内名誉会員) 2008年7月14日ごに逝去されました。享年82歳

謹んで、哀悼の意を捧げます。

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 78	No. 5, 6, 7, 8, 9	(2008)
統計数理	Vol. 56	No. 1	(2008)
(独) 農業技術研究機構作物研究所研究報告		No. 9	(2008)
ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 14	No. 2-3	(2008)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 38	No. 2-3	(2008)
Acta zoologica cracoviensia	Vol. 51A	No. 1-2	(2008)
Acta zoologica cracoviensia	Vol. 51B	No. 1-2	(2008)
GENES GENOMICS	Vol. 30	No. 4	(2008)
folia biologica	Vol. 56	No. 1-4	(2008)
ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE	Vol. 77	No. 1-2	(2008)
Journal of Applied Genetics	Vol. 49	No. 1-2	(2008)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRIENDSHIP HOSPITAL	Vol. 22	No. 1-2	(2008)
Revista de SALUD ANIMAL	Vol. 29	No. 2-3	(2007)

(鈴木真有美)

◆2009年度情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 博士研究員募集◆

募集人員	ポスドク 10名程度
応募資格	①博士の学位を取得した者又は博士の学位取得が確実な者, ②本研究所の研究プロジェクトを推進するために必要な研究能力を有する者
雇用期間	2009年4月1日～2010年3月31日 継続の申請と審査を経て通算2年間(24ヶ月)の雇用が可能。応募書類で申請すれば, 着任の日を2009年10月1日までの範囲で遅らせることができる。
給 与 等 提出書類	本研究所の規程に基づき決定(年俸410万円～/税込), 社会保険適用, 裁量労働制 ①履歴書, ②これまでの研究内容の要旨, ③発表論文リスト, ④研究課題及び研究計画, ⑤推薦者名(受入先の本研究所研究教育職員), ⑥推薦者による意見書, ⑦着任を遅らせたい場合は, その理由と着任の日
応募締切	2008年12月12日(金)17時必着
提出方法	電子メールに応募書類を添付して連絡先のアドレスに送信願います。
連 絡 先	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所研究推進課研究支援チーム Email: kenkyo-mail@lab.nig.ac.jp TEL 055-981-6711 ※応募前に必ず本研究所のホームページ(http://www.nig.ac.jp)にある募集要項を読み, 詳細を御確認ください。

◆山田科学振興財団2009年度研究援助候補推薦要項◆

山田科学振興財団より2009年度研究援助候補の推薦依頼がとどいております。推薦を希望される方は研究援助候補推薦要項・推薦用紙を以下のホームページアドレスよりダウンロードし, 財団への提出書類(推薦書4部および別刷論文各4部)およびその写し11部を郵送にて, 2009年2月末(学会内で選考のため財団の提出締めきりより, 通常は1ヶ月早く締めきる)までに学会事務局宛にご送付ください。

<http://www.yamadazaidan.jp/>

援助の趣旨

1. 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して、研究費の援助をいたします。
実用指向研究は援助の対象としません。
推薦に際しては、次記を考慮して下さい。
 - 1) 萌芽的・独創的研究
 - 2) 新規研究グループで実施される研究
 - 3) 学際性、国際性の観点からみて優れた研究
 - 4) 国際協力研究
2. 援助額は1件当たり100－500万円、総額4000万円、援助総件数は15件程度ですが、学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦の中から選考致します。
3. 援助金を給与に充てることはできませんが、特に財団が指定した場合を除き、給与以外の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の約2年間とします。

推薦方法

推薦者

本財団が依頼した学会の代表者

推薦件数

1推薦者ごとに2件以内

推薦手続

推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。

1. 所定の用紙又はその写しに必要事項を記入したもの 4部
2. 添付資料（研学（'08）5/8ページ参照）

被推薦者

- 1) 当該研究を独立して実施し得る者でなければならない。すなわち、当該研究者は代表研究者であることを必要とし、単に研究グループの研究費集めの一端を担う者であってはならない。
- 2) 身分、経歴、年齢等は問わない。
但し、日本の研究機関に所属する研究者であること。

推薦用紙

ダウンロード（全9頁）

推薦期限

推薦を依頼した学会より、本財団へ推薦書が到着する期限は2009年3月末です。（毎年10月1日より募集開始）

選考方法

選考委員会において選考のうえ、理事会が決定します。

選考結果の通知

2009年7月末迄に推薦者及び代表研究者等宛てに通知します。

援助金の贈呈

選考結果の通知後、適時贈呈します。

◆情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 研究教育職員募集要項◆

- 1 所 属： 生命情報・DDBJ 研究センター 遺伝子機能研究室
- 2 職名・募集人数： 教授又は准教授 1名
- 3 勤 務 形 態： 常勤（任期なし）、裁量労働制
- 4 採 用 条 件： 「バイオインフォマティックスの分野で優れた業績を有し、独創的な研究を展開できるとともに、DDBJ 事業に連携協力ができ、教授又は准教授として高い見識と指導力を持つ者。」
- 5 採用予定時期： 決定後できるだけ早い時期

- 6 応募締め切り： 2008年10月24日（金）必着
- 7 提出書類： (1) 履歴書（英文・和文各1通，年号は西暦，Eメールアドレス記入）
 (2) 学術論文，総説などの目録（主要論文の番号に○印を付してください。）
 (3) 現在までの研究の概要と将来の方向・希望（英文A4判2～3枚）
 (4) 本人について評価できる研究者4名（うち国外2名以上）の氏名と連絡先
 (5) 略歴書（HPに書式を掲載）
 (6) 主要論文別刷
- 8 提出方法： 提出書類（1）～（5）は，できるだけ電子メールでお願いします。
 (a) メール題名（Subject:）を，「遺伝子機能研究室教授（又は准教授）応募」とし，
 メール本文にもその旨明記してください。（希望職種を明記ください。）
 (b) 提出書類（1）～（4）の内容は改頁で区切り，一つのファイルにしてメール添付で送
 付ください。ファイル形式はMS-Word または pdf でお願いします。
 また，（5）の略歴書については，様式をホームページからダウンロードの上記入
 し，Excel 形式のまま送付ください。
 (c) （6）の主要論文は，www で閲覧可能なものに関しては http アドレスを含んだリス
 トをメール本文に記入し，別途郵送にて主要論文別刷一式を送付ください。
 メールでの応募が不可能な場合には，郵送での応募も受け付けます。
 郵送は，応募する部門・研究室名及び職名を封筒に朱書きし，書留で送付くだ
 さい。
 ＊応募書類等は，原則として返却いたしませんので御了承願います。
 また，メール着信後，2日以内に受信した旨返信いたします。

提出・問い合わせ先等 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会（人事・労務チーム）
 E-mail: nigjinji@lab.nig.ac.jp
 郵送：〒411-8540 静岡県三島市谷田1111番地
 電話：055(981)6709（直通） Fax：055(981)6734
 ホームページ：http://www.nig.ac.jp/
 国立遺伝学研究所組織図（http://www.nig.ac.jp/section/index-j.html）

◆立命館大学教授または准教授の募集要項◆

1. 任用職名 生命科学部 生命情報学科 教授または准教授
2. 募集人数 下記の2分野で各1名，計2名
3. 専門分野
 - ①システムバイオロジー・オミクス研究（実験的研究を含む）の経歴をお持ちの方。
 - ②広い意味でのシステムバイオロジー研究（実験的研究を含む）の経歴をお持ちの方で医学・医療への応用に興味をお持ちの方。
4. 担当科目 専門科目とともに，関連の教養科目・実験科目および卒業研究の指導をあわせて担当していただきます。
5. 応募資格
 - ①本学での教育・研究に熱意を持ち，卒業研究の指導を担える方。なお本学では講座制は採用しておりません。
 - ②着任時に博士の学位を有し，専門分野の優れた教育研究業績のある方。
 ※国籍は問わないが，本学での教育・研究に支障のない程度の日本語能力を有すること。
 ※本公募は「男女共同参画」の理念に基づくものです。
6. 給与等 本学給与規程等によります。
7. 着任時期 2009年4月1日
8. 提出書類
 - ①履歴書（本学の様式）
 ・大学卒業以後の学歴を記載し，博士学位については，取得年月と博士学位名および授与機関を記載してください。

- ・職歴すべてを記入し、期間、職名、地位等についても記載してください。
- ・所属している学会を記載してください。
- ・本人の署名または記名押印、本籍地または国籍を記載してください。
- ・問合せを行う際の電話番号およびメールアドレスを記載してください。

②教育研究業績書（本学の様式）

- ・著書、論文（査読付き）、学会発表（国際学会、招待講演）、特許等の区分をして明示してください。
- ・教育歴については大学・学部・学科、担当科目名称、期間等を記載してください。
- ・企業研修やセミナー等の講師実績についても記載してください。
- ・実務実績を有する方については、職務内容、期間等を記載してください。

③主要研究業績

- ・著書または論文5編以内（コピー、抜刷可）。

④研究の概要等を記載した書類（書式自由）

- ・現在までの研究内容の説明と今後の研究計画の概要（1,500字程度）および本学部において教育・研究を希望する理由（1,000字程度）を記載してください。

⑤科研費等の研究補助金の取得状況を記載した書類（書式自由）

⑥参考意見を伺える方の氏名等を記載した書類（書式自由）

- ・応募者について参考意見を伺える方2名の氏名・所属・連絡先ならびに応募者との関係を記載してください。

※①②の書式は本学のホームページよりダウンロードしてください。

http://www.ritsumei.jp/job/index_j.html

※健康診断書の提出は不要ですが、採用決定までに本学保健センターの健康診断を受けていただく必要があります。

※応募に際しご提出いただいた個人情報、本学の規程に従って適切に管理し、採用選考の目的以外には使用いたしません。

※提出書類は返却致しませんので、予めご了承ください。

9. 応募締切

2008年10月24日（金）必着

※応募書類受領後、書類選考（1次選考）の上、2次選考対象者に対し面接を実施する予定です。

10. 書類の提出先および問合せ先

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学 生命科学部 生命情報学科

学科長 菊地 武司

FAX：077-561-5203

E-mail：tkikuchi@sk.ritsumei.ac.jp

※応募封筒には『生命科学部 生命情報学科 教員応募書類（専門分野①）在中』または『生命科学部 生命情報学科 教員応募書類（専門分野②）在中』と朱書きして、必ず書留にて郵送してください。

※お問い合わせは、FAX または E-mail でお願いします。

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員とすることができる。
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員の選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
7) 評議員会は、会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。

Genes & Genetic Systems 第83巻4号（付録） 2008年9月30日発行 非売品 発行者 品川日出夫・斎藤 成也 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800 発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内	学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html （電話・FAX 055-981-6736） （振替口座・00110-7-183404） 加入者名・日本遺伝学会 国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。
---	---